

八千代エンジニアリング



ミャンマーの現地調査で中井が山川さん



国際事業本部
電力・プラント部

山川 正雄さん
(34歳)
Yamakawa Masao

Check

インフラ全般に加え行政サービスも支援

八千代エンジニアリングは1963年創業の総合建設コンサルティング会社である。①町づくりの社会計画、②自然環境や廃棄物、③橋・トンネルを含む道路や鉄道、④ダムや港湾などの河川・水工—の主要4グループ、および横断的な研究開発グループという組織構成が特長で、専門分野を有機的に結んだ設計・施工監理技術には定評がある。

国際事業本部は90年に創設。政府開発援助(ODA)案件を中心に、国際協力や国際援助プロジェクトを手掛けてきた。同本部は社会・経済基盤(途上国の開発計画策定、交通インフラ、生活権向上プロジェクトなど)、水資源(ダムによる水資源開発、治水事業など)、都市環境(上下水道や廃棄物管理など)、施設(通信・放送設備、教育文化施設など)、電力・プラント(発電配電の施設建設)——の各部署で構成。国内で長年培ってきた高い技術力を海外で展開し、実績を重ねている。

近年はインフラ整備にとどまらず、整備されたインフラが継続的に地域住民の資産として機能するように、地域社会の安定や行政サービスまで視野に入れた支援アプローチで、社会開発を推進してきた。さらに、平和構築や海外復興支援業務にも力を入れ、開発協力を広く貢献している。



company data

八千代エンジニアリング株式会社
Yachiyo Engineering Co., Ltd.
〒111-8648 東京都台東区浅草橋5-20-8 CSタワー
海外事務所：ジャカルタ事務所/ミャンマー事務所/ナイジェリア事務所/カイロ事務所/コロンビア事務所/サンパウロ事務所/韓国事務所
設立：1963年1月 資本金：4億5,000万円
従業員数：1,005人
代表者：代表取締役社長 花岡憲男
事業分野：道路、鉄道、電力土木、河川・砂防・防災、都市・地域計画、通信・放送、建設環境、廃棄物管理、土木調査、復興支援など

recruitment

新卒採用：あり 中途採用：あり
募集職種：海外開発コンサルタント
募集人数：若干名
TEL：03-5822-2900(代) FAX：03-5822-2785
E-mail：kyujin@yachiyo-eng.co.jp
URL：http://www.yachiyo-eng.co.jp/

Career Path

- Age 25 大学院修了後、青年海外協力隊でナミビアに派遣
- 29 八千代エンジニアリングに入社。入社2カ月でガーナの案件形成調査に携わる
- 30 トンガの「マイクログリッドシステム開発・導入計画」に従事
- 34 電力・プラント部主任として有償案件、無償案件に携わる

力の調査と検討を行い報告書に添付しました。その後、同国で新たに風力発電の案件が動き出そうとしていることを知り、相手の気持ちを敏感に感じ取ることの大切さ

を実感しました。今は技術士資格の取得を目指しており、技術力を磨きながら幅広い案件に携わることで、ステップアップを図ればと考えています。

大 学では理系の学部へ所属し、半導体素子について研究しました。就職活動に際して「自分は研究者タイプでもないし、かと言ってメーカー勤務も何か違う」と悩んでいた時、青年海外協力隊の広告が目に入り、自分の進路が明確になるきっかけになるかも知れないと思い応募したのです。2年間ナミビアで理数科教師として活動し、日本と文化的な違いはあっても、うれしいことや不快なことなど人間の根底にある感情は世界共通だと実感しました。もともと抱いていた海外で仕事をしてみたいという思いがより強まり、帰国後は理系の知識や技術を生かして、かつ世界の人々とかかわることができると探していました。その思いと合致していたのが、開発コンサルタントの仕事でした。当社は若いうちから現場を経験するチャンスにあふれています。私は入社2カ月後に、ガーナの電力分野の案件形成調査に同行しま

した。既存のマスタープランを調べたり、関係者から話を聞いたりしながら、一から案件を作り上げる仕事の醍醐味に触れることができたのは、有意義な経験でした。印象に残っている業務は、トンガで再生可能エネルギーと蓄電設備などを組み合わせ、安定的な電力供給を目指す「マイクログリッドシステム開発・導入計画」です。電力系統分析に必要な資料を同国で集めた際には、現地技術者の同席の下、分析を担当する日本企業と電話で連絡を取りながら、膨大なデータを一つひとつ確認しました。また、環境社会配慮に関する資料が未成熟であったため、風力発電は見送る方向になった時、同国の担当者の複雑そうな表情が気になった私は、もう少し話を聞いてみることを提案しました。すると「現時点での実施は難しいかもしれないが、今後のために風力に関する情報の精査は行ってほしい」との要望があることが分かり、風

思いをくみ取る大切さを実感